

告 辞

本日ここに、ご来賓をはじめ、ご家族・保護者、琉球大学同窓会及び後援財団の皆様方のご臨席を賜り、平成27（2015）年度の学部及び大学院の入学式を挙行できますことは、誠に喜びにたえません。

琉球大学を代表して、只今入学を許可された学部1,643名、特別専攻科7名、大学院修士課程及び博士前期課程241名、博士後期課程及び博士課程53名、大学院法務研究科10名、大学院特別プログラム20名、合計1,974名の諸君のこれまでの努力と精進を称え、入学を心から祝福申し上げます。また、入学生のご家族・保護者の皆様にも衷心よりお祝いを申し上げます。入学生諸君がこの琉球大学において、それぞれの修業年限にわたり、悔いのない意義深い充実した学生生活を送ることができるよう、私ども教職員一同がしっかりサポートして参ります。

さて、諸君が入学した国立大学法人琉球大学は、他の国立大学とはその設立の経緯が異なっております。戦後の沖縄復興に高等教育機関による人財育成が重要であると県内外から切望され、1950年に設立されました。設立時の本学は、米国における地域貢献を理念とするミシガン州立大学ミッションの指導によって、教学や大学運営の基礎が築かれました。1966年から琉球政府立大学となり、1972年の日本復帰によって国立大学となりました。さらに、2004年に法人化され、国立大学法人琉球大学となって、今日に至っております。今年が創立65周年の節目の年になります。

琉球大学の建学の精神は、「自由・平等、寛容・平和」です。すなわち、選択の自由と機会の平等を求める精神、多様性・異質性を認める寛容の精神、そして平和を希求する精神です。この建学の精神を継承・発展させて、「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」及び「平和・共生の追求」の三本柱を基本理念として定めています。

そもそも大学は、真理を探究する場であり、深く専門の学問分野を研究し教授する学術の中心であります。大学で行われる教育研究活動の成果を、自らが立地する地域はもとより、近隣のアジア・太平洋地域へ様々な形で還元し、貢献していくことが大切であります。同時に、沖縄の歴史が育んできた平和を愛する心と、様々な生きとし生けるものとの共生を目指す精神を育むことは、私

たちが住むかけがえのない地球を守ることにつながります。

このようなことから、琉球大学は、地域との共生・協働を主体とする「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」、そしてまた、本学の強みを発揮し、新しい学問領域である **Tropical Marine and Island Studies**（熱帯島嶼海洋研究）の国際的拠点として、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指しております。

学部に入学者は、「琉大グローバルシティズン・カリキュラム **URGCC**」のもとで、グローバルに活躍できるイノベティブな人材を育成するための学士教育課程として、共通教育と専門教育を究めることとなります。**URGCC**は、情報リテラシーやコミュニケーション・スキルなどのスキル修得型や知識注入型の教育のみを主体とするカリキュラムでは決してありません。これからの時代に必要とされる、強靱でしなやかな精神力を持ち、知性豊かで、自立した創造的な人間へと学生諸君が育つことを助けるカリキュラムであります。

また、大学院に入学者は、国際通用性をもった研究者として自立して研究活動を行うに足る、または高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍しうる、高度の研究能力や科学技術力とその基礎となる豊かな学識を培うこととなります。それぞれの専門分野の研究を通して、創造的発想力と総合的・融合的思考力、そして高い倫理性を十分身に付けてもらうように工夫しています。

留学生の皆さんには、母国と異なる環境で生活・勉学することになりますが、何か困ったことがありましたら、留学生センターの窓口を訪ねてください。皆さんは本学の学生の一員でありますので、積極的に他の学生と交流し世界のことについて議論してください。そして、沖縄に滞在中に、沖縄の人たちとの交流を通して、沖縄あるいは日本の文化、歴史、自然、そして人間の魅力を体で感じ取ってもらいたいと願っています。

ところで、田坂広志が『知性を磨く』という著書の中で、「高い知能を持ち、豊かな知識を身につけ、高学歴を誇る人物が、必ずしも、深い知性を感じさせないのはなぜか」ということを問うています。我が国の受験教育や学歴社会に対する批判として指摘していますが、沖縄にも似たような言葉があります。「シメーシッチ ムノーシラン」（学問は積んで学歴があっても、世の中の道理や常識を知らない人のこと）です。つまり、知識とは書物やインターネット等から

学べるものであるが、知恵とは経験や臨床、実習など体験からしか学べないものであって、知性の本質は知識ではなく、経験にもとづく知恵であるということです。

このようなことから、大学において学問を究める目的は、博識になり、社会で成功し、出世するためのノウハウを身に付けることではなく、真に大切なものは何かを見抜く力を備えた総合的な知性としての叡智を培うことにあるといえます。沖縄の言葉では、「ジンブン」（生きる知恵）を身につけることにほかなりません。

私が好きな学者の一人に、ジャレド・ダイヤモンドという生理学者であり進化生物学者、生物地理学者、鳥類学者、人類学者、ノンフィクション作家でもあるマルチ人間がいます。彼は77歳ですが、後世に残したいメッセージとして次の三点を挙げています。一つは、人生は複雑であるので、複雑さを恐れずに答えを探せということです。二つ目は、人間の多様性を学ばねばならないということ、三つ目は持続可能な環境保全の問題を深刻に受けとめる必要があるということです。（ジャレド・ダイヤモンドほか『変革の知』、角川新書、2015、88頁）

私たちの周りには、毎日、様々な出来事が起きています。諸君！在学中に総合的な知性としての叡智を磨き上げ、人生の複雑さや人間及び自然生態系の多様性を実感すべく、ものごとの本質を見抜く人間に成長してください。琉球大学は、そのような主体的・能動的に活動する諸君をしっかり支えていく大学であることを申し上げ、諸君の門出に当たっての告辞といたします。

平成27年4月3日吉日

国立大学法人琉球大学長 大城 肇